

## ＜Khaleque Khan 博士が 2017 年 Royan 国際研究賞を受賞＞

京都府立医科大学研究開発・質管理向上統合センター(CQARD)の准教授 Khaleque Khan (カーン・カレク) 博士は、このたび、女性不妊症分野における第 18 回 Royan 国際研究賞(2017)を受賞されました。

Royan 国際研究賞は、イランの Royan 研究所の所長 Saeid Kazemi 博士によって設立された栄誉ある賞で、研究者の業績を称えて奨励するとともに、互いの知識と経験を交換するための友好的な科学的環境を提供することを目的としています。第 1 回 Royan International Congress on Reproductive Biomedicine and Stem Cells は Kazemi 博士により 2000 年に開催されました。



Khan 博士は、2017 年 8 月 30 日～9 月 1 日、イラン・テヘランにて開催された、第 18 回 Royan International Congress on Reproductive Biomedicine において、“Molecular detection of intrauterine microbial colonization in women with endometriosis”と題した受賞記念講演を行いました。

今年の Royan 国際研究賞は、女性不妊症、発生学、再生医療、生殖遺伝学、幹細胞生物学の 5 分野を対象に、45 ヶ国以上の国々から応募された 1500 名の中から受賞者が選ばれ、Khan 博士はその一人でした。

授賞式には、Royan 研究所の所長、副所長、イラン政府代表、受賞者 5 名の属する国のイラン駐在大使が出席され、Khan 博士は在テヘランの日本大使から賞を贈呈されました。

Khan 博士は現在、京都府立医科大学 CQARD にて英語論文指導に携わりつつ、産婦人科学教室において生殖内分泌学および免疫学の研究に取り組んでいます。また子宮内膜症に関する国内外で実施されている研究プロジェクトにおいて指導的役割を果たしています。Khan 博士は、子宮内膜症に関する過去 15 年間にわたる継続的研究によって、子宮内膜症発生についての新しい概念 “Bacterial contamination hypothesis” を確立しました。今回の受賞対象論文で提示された最新の研究成果は、子宮内膜症に対する将来の治療に貢献し、子宮内膜症に罹患している女性の QOL や不妊状態の改善に寄与することが期待されます。